

テーマ： 認知症のある高齢者に対する支援

【南部圏域】事例①

<事例テーマ>

判断能力が低下している人の意思決定支援について

<事例概要>

身寄りがなく、閉じこもり傾向にあり、民生委員・児童委員からの相談で支援開始となった事例。本人はもの忘れの自覚はあるものの、困り感を感じておらず、介護保険サービスの導入については拒否的。時間をかけて支援者と本人の関係性を築き、認知症専門医の受診やサービス利用についての同意を得た。しかし、認知機能が低下している本人の、意思決定支援をどう進めるべきなのか、判断に迷う所があった。

<見出された地域課題>

- ・認知症の早期発見、地域の理解醸成につながるよう、地域への認知症に関する周知啓発が必要。
- ・認知機能が低下している人の支援の方向性についての関係者全員で検討・決定し、その人にとって望ましい支援につながるような仕組みについての検討が必要。

【北部圏域】事例②

<事例テーマ>

軽度認知障害の介護サービスに繋がらない人への支援

<事例概要>

アルツハイマー型認知症の診断を受け、免許返納に向けての支援を行っていた事例。子が免許センターにも相談しながら支援し、免許返納することができたが、返納の数日後より、本人が不穏状態となり、対応に苦慮した。サービス導入について検討するも、日常生活動作は自立しており、サービス導入は見送ることとなり、地域の集まり等には時間が決められている所には行きたくないという思いがあり、参加していない。

<見出された地域課題>

- ・近隣住民および関連機関等への認知症に関する周知啓発が必要。
- ・様々な形態(開催場所、開催頻度、参加者等)の認知症カフェ等の居場所の拡大。
- ・近隣住民や関係機関が情報共有できるような環境づくりについての検討。

共通の地域課題

【課題】

- ・認知症に関する地域への周知啓発が必要。
- ・認知機能が低下している人の意志決定支援についての検討が必要。

地域課題に対する現状

- ・単身世帯、高齢者世帯が増加している。
- ・キーパーソンがいない高齢者が多く、認知機能低下しており判断能力の有無の判別が難しい等で、意思決定支援に困る。

今後の方向性（行政、地域…）

- ・判断能力が低下している高齢者の意思決定支援についての支援方法の検討。
- ・認知症に関する周知啓発による地域理解の醸成(認知症サポーター養成講座、チームオレンジ 等)



第4回 地域ケア個別会議の開催結果

日時：令和5年12月21日（木）午後6時から7時30分まで 場所：市役所2階防災会議室

テーマ：いつまでも自分らしく暮らしていくための自立支援・重度化防止

【北部圏域】事例①

<事例テーマ>

要支援認定者の独居生活を維持するための支援について

<事例概要>

5年前に要支援認定を受け、要支援認定を維持して生活している。遠方の家族から同居の提案があったが、本人は住み慣れた地域で生活したいという希望があり、独居で生活している。子には迷惑を掛けたくないという思いが強く、支援者から子に連絡することを拒否している。

<見出された地域課題>

- ・高齢者が孤立しないための移動支援のための手段の検討が必要。
- ・その人らしい生活を送ることができるような、(フォーマルサービス、インフォーマルサービスを含めた)情報提供および意思決定支援。

【中部圏域】事例②

<事例テーマ>

いつまでも在宅で生活していくための自立支援

<事例概要>

17年間要支援認定を継続しており、独居で生活。子は遠方に在住で、関係不良ではないが、関係性は希薄。住み慣れた地域で生活したいという思いはありながら、高齢になり、身体的変化もある中で不安を感じている。

<見出された地域課題>

- ・地域で支え合う仕組み作りが必要。
- ・支援者が、遠方の家族とも連携を図り、互いに情報共有できる関係づくりが必要。

共通の地域課題

【課題】

- ・地域で支え合い、高齢者が孤立しないための仕組み作りが必要。

地域課題に対する現状

【現状】

- ・家族が遠方に住んでいる独居の高齢者が多くいる。
- ・身体機能の低下で通いの場に行けなくなることで、社会的交流がなくなり、高齢者が孤立することがある。
- ・フォーマルサービス、インフォーマルサービスの不足。

今後の方向性（行政、地域…）

【今後の方向性】

- ・インフォーマルな取り組みの推進(生活支援体制整備事業による生活支援、移動支援等、通いの場による社会的交流の場の構築 等)
- ・フォーマルサービス(総合事業、緊急通報システム等)についての現状分析と在り方の検討。

